

平成24年(ワ)第328号、平成25年(ワ)第59号 志賀原発運転差止請求事件
原告 北野進 外124名
被告 北陸電力株式会社

証拠説明書(27)

(第29準備書面に関して)

平成26年9月24日

金沢地方裁判所民事部合議B1係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 岩淵正明 外



以下の証拠表示は、甲号証番号、標目、原本の有無、作成者、作成日、立証趣旨等の順に記載する。

番号	標目	原写	作成者	作成日	分類	立証趣旨等
B283	平成26年5月22日付毎日新聞記事	写	毎日新聞	H26.5.22	③	【第29準備書面第1】 強震動地震学の権威である入倉孝次郎京都大学名誉教授が大飯判決について「揺れの強さが1260ガルを超える地震が絶対に来ないとは言い切れず、警告を発する意味で重要な判決だ。」とコメントしていること
B284	科学第82巻第6号「地震の予測と対策：「想定」をどのように活かすのか」	写	岩波書店	H24.6.1	③	【第29準備書面第1】 地震の科学は、対象が複雑系の問題であるので、原理的に完全な予測が困難であること、実験のできるものではないので、過去のデータに頼るしかないが、起こる現象が低頻度であるのでデータが少ないこと、したがって、地震の科学には限界がある、ということ

						<p>頻度が1桁下がるごとに大きな現象があると考えられるとされていること</p> <p>真に重要なものは(既往)日本最大か世界最大で備えるしかないこと</p>
B285	DPRI Newsletter No.19「2000年鳥取県西部地震が投げかけた問題」	写	京都大学防災研究所	H13.2	③	<p>【第29準備書面第3】</p> <p>(2000年鳥取県西部地震の震源断層では)1989年からマグニチュード5クラスの地震が繰り返して起きており、長期的に見て群発地震の活動域であり、そういうところでは岩盤に蓄えられるストレスを小出しに解消しているはずであると思っており、だから大地震は起こらないだろうというのが大方の見方だったが、実際に大地震は起きたことなどからすれば、現在の地震研究において、未知のことが多数あり、予想外の巨大地震が発生していることは明らかであること</p>
B286	平成26年3月29日付愛媛新聞記事	写	愛媛新聞	H26.3.29	③	<p>【第29準備書面第4】</p> <p>入倉名誉教授は、強震動予測レシピが「平均像」を求めるものに過ぎず、四国電力が行った、STEP5における応力降下量の想定を1.5倍にすることについても、明確な根拠があるわけではないと言い、そして、その平均像を超える地震はいくらでもあるとまで明言していること</p>